MOMOTOSE DAYORI

ももとせ便り

令和3年辛丑

冬号

JINGUKAN

No.53

特集 神話伝承シリーズ⑤

神に選ばれし、永遠の聖地 伊勢

雪輪文様

雪は豊作の吉兆として、日本で古くから喜ばれていました。その雪を図案化した雪輪文様は丸を六カ所凹ませたような形が特徴で、室町時代あたりに誕生したといわれています。雪といえば冬のイメージが強いモチーフですが、年中使われ、夏の浴衣にも見られます。暑い季節、雪に涼を求めたり、すぐに溶けてしまうはかなさに心ひかれたり…そんなところに日本人特有の風情を感じられる文様です。

ももとせ便り No.53 発行／神宮館 東京都台東区東上野1−1−4 TEL 03-3831-1638 https://jingukan.co.jp 発行人／木村通子

四季の移ろいを感じ楽しむ

七十二候

1年を24等分した二十四節気（立春、春分など）を、それぞれ3つの「候」に区切った節目を七十二候といいます。移ろう季節を愛でる日本人の豊かな感性を象徴しています。

小雪 末候

橘始黄

たちばなはじめてきばむ

12月2日〜12月6日頃

黄色がひときわ輝く季節 冬の便りを届ける初雪

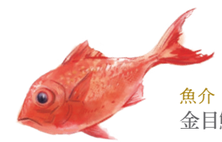
しんしんと降り積もるほどではないけれど、ちらちらと白い雪を目にするたび、深まる冬の気配を感じます。太陽が顔を出す時間は日に日に短くなり、暖かな日差しが恋しくなる時期。初冬の晴れた日、花びらのように風に舞う小雪「風花（かざはな）」が、風景の中に落ちては消えてを繰り返す様子は可憐で、はかなくも美しいその姿に、情緒を揺さぶられます。

赤く色づく紅葉を終えたら「黄葉」の季節が到来。六月に白い花を咲かせ、ようやく黄色に色づき始めた橘の実は、小さいけれど鮮やかで、同時期に咲く大輪の寒椿と共に、色数の少ない冬景色に彩りを添えます。

行事 お歳暮

きざし 橘

植物 椿



魚介 金目鯛

開運ポイント

柑橘類の総称でもある橘は常緑樹であることから「永遠」に例えられ『日本書紀』では「不老不死の実」として登場。柑橘類を食べて健康運UPを。

神宮館 SELECT

〜運を引き寄せる〜
わかりやすい
九星気学と吉方位

定価：1,870円

マンガでわかりやすく解説！

この度、『家相と間取り』、『姓名判断と名前の付け方』に続く、運を引き寄せるわかりやすいシリーズの第3弾として、九星気学の書籍を刊行しました。九星気学では生年月日によって算出される本命星をもとに、運勢や相性、適職、性格、吉方位などを知ることができ、宿命や運気の流れをつかむことによって、自分の努力次第で運勢を良い方向へ変えることが可能になります。

本書では、難しいイメージの九星気学を図解やマンガを盛り込みながら、わかりやすく解説しています。とよみの著者でもある鑑定師の松本象湧先生が、九星気学の基本から応用までを丁寧にわかりやすくまとめました。運気をアップさせる祐気取りの効果や作法、5つの秘法も掲載していますので、ぜひ実践していただき、九星気学を活用して運を引き寄せてください。

ももとせクイズ

Q おかげ横丁の入口にある石像のモチーフになっている動物は？

応募方法

郵便はがき
「お名前」「郵便番号」「住所」「電話番号」「生年月日」「クイズの答え」「ご意見・ご感想」を必ず明記ください。
〒110-0015 東京都台東区東上野1-1-4
株式会社神宮館 「ももとせクイズ」係

インターネット
https://jingukan.co.jp/momotose-present/
右のQRコードを読み込み、応募フォームにアクセスしてください。

応募締切 2021年12月末日

※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

今回のプレゼント

九星別マスクチャーム
3名様

マスクのひもにつける開運チャームです。チャームの石は九星によって異なります。

※前回の答え
「熱田神宮」

特集 神話伝承シリーズ5

神に選ばれし、永遠の聖地 伊勢

朝参りがおすすめの「外宮」

江戸時代に「せめて一生に一度でも…」と伊勢音頭で歌われるほどの一大ブームとなった「お伊勢参り」。おかげさまと神様に感謝して参拝することから「おかげ参り」とも呼ばれ、庶民の憧れの旅だった。およそ二千年の歴史をもつ伊勢神宮は、天照大御神（あまてらすおおみかみ）をご祭神とする皇大神宮（内宮）と、天照大御神の御饌都神（みけつかみ）の豊受大御神（とようけのおおみかみ）をご祭神とする豊受大神宮（外宮）をはじめとする125社の総称で、日本人の総氏神的な存在として全国から深い崇敬を集めている。

▲ 外宮の伊勢鳥居

お伊勢参りは外宮（げくう）から参拝するのが習わし。伊勢市駅から外宮参道を歩いて6分ほどで外宮に到着する。取材日は朝5時から出発したので人が少なく静かで、爽やかな朝の空気と神聖な雰囲気が相まって、心も体も澄み渡る。木々に覆われた伊勢鳥居をくぐって参道を真っすぐ歩くと、最奥に、檜の素木（しらき）を用い、屋根は萱葺（かやぶき）、柱は掘立など、日本古来の建築様式「唯一神明造」で造られた「正宮」がある。撮影不可のため写真は掲載できないが、その佇まいは簡素にして直線的な日本の美しさそのものを感じさせる。

その後「多賀宮」「土宮」「風宮」と順に参拝し、外宮を後にして内宮（ないくう）へ。

永遠の憧れの聖地「内宮」

外宮から内宮まではバスで20分ほど。伊勢鳥居をくぐると清流・五十鈴川にかかる宇治橋。宇治橋は日常から神聖な世界への架け橋といわれる。五十鈴川をしばし眺めて心を清めた後は、紅葉の名所として知られ、春には神宮奉納大相撲が開催される神苑へ。さらに参道の最奥には日本人の大宮祖神（おおみおやがみ）であり、八百万の神々の最高位である天照大御神が鎮座する「正宮」がある。途中、五十鈴川の流れで手を洗うことで身を清められる御手洗場があるのだが、取材前日の雨で増水しており、手を洗うことは断念した。「風日祈宮」「荒祭宮」「子安神社」「大山祇神社」にも忘れず参拝を。

宇治橋の大鳥居

▲五十鈴川の御手洗場

おはらい町通りとおかげ横丁

内宮の門前町は一大観光エリア。内宮から続く「おはらい町通り」は時代劇のような雰囲気で、時期や時間帯によっては大勢の人で賑わう。伊勢の二大名物「伊勢うどん」と「てこね寿司」はもちろん、約800メートル続く通りに数多くのお店が集い、つい時間を忘れてしまいそう。「赤福」の本店と「へんば餅」のへんばや商店もあるので、忘れずに立ち寄ろう。

通りの途中には「おかげ横丁」という一角が。ここは一時期、以前よりも衰退した門前町にかつての賑わいを取り戻そうと、平成5年に赤福店主が構想し完成させた場所。大きな招き猫の石像が目印で、お祭りの日に町に訪れたかなと錯覚するほど活気があふれている。中央の広場では、休みの日だけ一日4回「神恩太鼓」の講演がある。今あることを神様に感謝するおかげ横丁の精神を表現する太鼓の音を、ぜひ聴いてほしい。

江戸時代、多くの人が一生に一度はと憧れた「お伊勢参り」。一度ではなく二度三度訪れたくなる地だった。

▲ おはらい町通り

▲ おかげ横丁入口

▲ 神恩太鼓の講演

DATA

- 豊受大神宮（外宮）（とようけだいじんぐう）
  伊勢市豊川町 279
- 皇大神宮（内宮）（こうたいじんぐう）
  伊勢市宇治館町1

今回の旅で購入したお土産

真珠塩サイダー
南伊勢町の綺麗な海水を真珠と共に炊く真珠塩を使用したサイダー。

おかげ横丁の「おかげ犬みくじ」
陶器製のおかげ犬。裏返して赤い紐を引っ張ると、おみくじが出てくる。

やまとひめのみこと 倭姫命とは

今から約二千年前、大和国の第11代垂仁天皇の皇女であった倭姫命は、天照大御神の御魂を鎮座する場所を求め、伊賀、近江、美濃と各地を巡った。長旅の末たどり着いた伊勢国で、倭姫命は天照大御神から「この神風の伊勢の国は常世の浪の重浪帰る国なり。傍国の可怜国なり。この国に居らむと欲ふ」というお告げを聞き、現在の内宮に御霊を鎮めた。東征する日本武尊に草薙の剣を授けたことでも知られ、あまりの美しさに二度振り返ったという言い伝えにちなんだ「二見」など、ゆかりの地名が各地に残っている。

五十鈴川

三重県の中東部に位置する伊勢市は、比較的温暖な気候と豊かな自然に恵まれた地域。名所や旧跡など歴史と伝統文化が色濃く残されており、三重県屈指の観光都市として全国的に知られている。その中心となるのが伊勢神宮で、初詣シーズンはもちろん、1年を通して全国から多くの観光客が訪れ、大変な賑わいを見せる。そのため 周辺には、宿泊施設や土産物屋などが多く、市を支える主幹産業となっている。

伊勢 おすすめスポット

赤福本店

古くからお伊勢参りの旅人をもてなし続けた茶屋。伊勢を代表する名物・赤福餅の作りたてを、ゆったりと座敷で味わうこともできる。

おかげ座 神話の館

おかげ横丁の中でも一際目立つ建物。立体展示と映像で、日本神話の世界を体感できる。日本神話の書籍も豊富。

外宮参道

伊勢市駅から外宮へと続く約 500mの参道。以前は寂しい通りだったが、近年魅力的なお店が集まり、新たな定番スポットして人気急上昇中。

へんばや商店 おはらい町店

昔ながらの素朴な味わいで愛され続ける看板商品「へんば餅」は絶品。消費期限が2日しかないため、お土産にする場合は気を付けよう。